NympheArt #22
"MUSIC from FINLAND & JAPAN" with SUPERPLUCK & EIKO MORIKAWA (soprano)


©Antti Ignatius



2026.11.23 [月・祝]

16:00 開演 /15:30 開場

愛知県芸術劇場 大リハーサル室
地下鉄「栄」駅下車 徒歩5分
愛知芸術文化センター 地下2階

【出 演】

スーパープラック
ロディー・ファン・ハマート（ギター）
エイヤ・カンカーンランタ（カンテレ）
アッシ・カルットゥネン（チェンバロ）

森川 栄子（ソプラノ）

伊藤 美由紀（作曲）
後藤 成美（作曲）

ニンフェアール 第２２回公演

# ニフィンランドと日本の響き

## スーパープラックと森川 栄子（ソプラノ）を迎えて

◆ チケット（消費税込・全席自由）
一般 ¥3,000　学生 ¥2,000　（当日各500円増）
*学生料金は25歳以下対象（要証明書）
未就学児のご入場は、お断りする場合がございます。

◆ チケットのお取り扱い
ニンフェアール nympheart@yahoo.co.jp
090-5621-3697（メール・電話予約受付中）
愛知芸術文化センター地下２階プレイガイド　052-972-0430
（平日10:00~19:00、土日休～18:00、月曜定休・祝休日の場合は翌平日）

■ 主 催・お問い合わせ
ニンフェアール 090-5621-3697・nympheart@yahoo.co.jp
愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）
052-211-7552（10:00~18:00）、contact@aaf.or.jp

■ 助 成　（公財）文化財保護・芸術研究助成財団
第３回日本音楽表現学会助成コンサート

【プログラム】

ロッタ・ヴェンナコスキ《新作》(2026)（トリオ）世界初演
アッシ・カルットゥネン《Sceletons》(2026)（チェンバロ）世界初演
ヨハンナ・ピトカネン《Villeldar》(2019)（トリオ）
ハンヌ・ポホヤンノロ《風のあと》(2026)（トリオ）世界初演
伊藤 美由紀《鐘》(2019)（ギター、ソプラノ）
《夢幻泡影》(2026)（トリオ）世界初演
後藤 成美《ギバリラバイ》(2026)（ソプラノ）世界初演
山田 麗子《新作》(2026)（チェンバロ）世界初演
横山 未央子《Gear type fauna》(2022)（トリオ）

*やむを得ず曲目を変更する場合がございます。
予めご了承下さい。

2024年の結成20周年度のドイツのアンサンブル・ホリゾンテとのコラボレーションに続き、第２２回公演も海外の演奏家とのコラボレーションに取り組みます。今回は、撥弦楽器であるギター、カンテレ、チェンバロのユニークな編成によりヨーロッパを中心に活躍するフィンランドのトリオ、スーパープラックを迎えます。本公演の演奏家のために書かれたフィンランド、日本の作曲家によるトリオ、ソロの新作を多数含んだ挑戦的なプログラムになります。日本で聴く機会の少ないフィンランド人作曲家の最新作品、フィンランドの民族楽器カンテレを演奏家との距離の近いアットホームな音響空間で繊細な音色を楽しめるコンサート。また、ニンフェアール公演に度々関わって頂いている愛知県在住のソプラノの森川栄子と作曲家・後藤成美によるソプラノ作品による新作も含まれます。撥弦楽器によるトリオと声による神秘的な残響を会場で体感して頂きたいと願っています。

## ◆ニンフェアール について

2005年愛知県で開催された国際芸術音楽祭に参加を機に作曲家の伊藤美由紀により結成されたプロジェクト。愛知県にゆかりのある作曲家、演奏家を国内外から招聘し、テクノロジーを利用したり、映像作家とのコラボレーション、文学をテーマとしたコンサートなど個性的なアイデアで精力的に企画を行う。2014年第10回公演『東洋と西洋の絃』にて、チャレンジ精神に満ちた企画で且つ公演成果の水準の高い優れた公演に贈られる第14回佐治敬三賞を受賞。2023年第19回公演は、長年現代音楽に挑戦してきた成果が結実し、現代音楽を楽しむための創意工夫が随所に凝らされた公演として名古屋市民芸術祭特別賞「クリエイティブ企画賞」を受賞。

## 出演者 *Profile*


©Jānis Brencis

ロディー・ファン・ハマート
（ギター）

Rody van Gemert (guitar)


©Lars Kastilan

エイヤ・カンカーンランタ
（カンテレ）

Eija Kankaanranta (kantele)



アッシ・カルットゥネン
（チェンバロ）

Assi Karttunen (harpsichord)

### スーパープラック

Superpluck

ロディ・ファン・ハマート（ギター）、エイヤ・カンカーンランタ（カンテレ）、アッシ・カルットゥネン（チェンバロ）によって2018年に結成されたヘルシンキを拠点とする現代音楽アンサンブル。この異なった撥弦楽器のトリオ編成により生み出されるユニークな音色の類似性と対比に着想を得て、作曲家との共同制作を活動の核に捉え、これまでにフィンランド、日本、スペインの作曲家に約30曲の作品を委嘱している。2019年のデビュー以来、フィンランド国内でのコンサートやヘルシンキでの複数年に渡る現代音楽クラブ・シリーズの主催に加え、日本でも2019、2022年の2度のツアーを行っている。近年の主要な公演として、ヘルシンキのムジカ・ノヴァ音楽祭への出演（2025年）や、アンサンブル・ノマドおよび佐藤紀雄との共演によるロッタ・ヴェンナコスキのトリオ協奏曲の東京初演（2026年）などがある。



### 森川 栄子（ソプラノ）

Eiko Morikawa (soprano)

北海道教育大学札幌分校特音課程および東京藝術大学声楽科卒業、同大学院音楽研究科修了。DAAD 奨学金を得てベルリン芸術大学に留学し、A・ライマンに現代声楽曲を、E・G・シュラムに声楽を学ぶ。1994 年ダルムシュタット現代音楽講習にてクラーニヒシュタイン音楽賞。1996年ガウデアムス現代音楽コンクール総合第2位、第 65 回日本音楽コンクール第1位および増沢賞。ミュンヒェン・ビエンナーレ（細川俊夫『リアの物語』ほか）、ザルツブルク音楽祭（ラッヘンマン『マッチ売りの少女』）、ベルリン・コーミッシェオーパー（リゲティ『ル・グラン・マカーブル』）出演など、数多くの新作世界初演を含む現代声楽作品・オペラを中心に主に欧州にて活躍。国内では新国立劇場、東京交響楽団定期演奏会、東京室内歌劇場公演、サントリー・サマーフェスティバルなどに数多く出演。2008年秋の帰国以来、愛知県立芸術大学、お茶の水女子大学において教鞭をとると同時に、ベルリン芸術大学教授アクセル・バウニ氏を共演ピアニストとして招聘し定期的にリサイタルを開催するなど活発な演奏活動を展開している。愛知県立芸術大学教授、お茶の水女子大学非常勤講師。



### 伊藤 美由紀（作曲）

Miyuki Ito (composer)

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院（ニューヨーク）修士課程修了後、コロンビア大学（ニューヨーク）で作曲をトリスタン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）にて研鑽を積む。ミュージック・フロム・ジャパン（ニューヨーク）、アタック・シアター（ビッツバーグ）、愛知芸術文化センター、Sinus Ton（ドイツ）、大矢素子、加藤訓子、等からの作品委嘱ほか、名古屋文化振興賞、日本交楽団振興財団作曲賞入選、フランコ・エヴァンジェリスティ国際コンクール（イタリア）優勝などを含み、カーネギーホール、レゾナンス・フェスティヴァル（パリ）、ISCM（香港、エストニア）、ICMC（マイアミ）、SMC（ギリシャ、スペイン）、Re:New（デンマーク）、Visiones Sonoras（メキシコ）、Foro国際現代音楽祭（メキシコ）、アジア音楽祭など国内外で作品の発表を続けている。また、ニンフェアール、JUMP（日米：新しい音楽の展望）の代表として自主企画公演を定期的に展開。『時の砂』がALCD80から、『もうひとつの声』が2020年トーンフォレスト・レコードからリリース。執筆活動として『音楽現代』に特集記事や公演批評を寄稿。2019年カワイサウンド技術・音楽振興財団研究助成による研究テーマは『二十五絃箏の可能性』、2025年研究テーマは『薩摩琵琶の可能性』。2026年名古屋市芸術賞を受賞。国際交流基金の助成により３回メキシコ公演ツアーを行い現代音楽を通しての文化交流活動も継続。今まで名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立芸術大学大学院、愛知県立大学、四川音楽学院(中国)などで後進の指導にあたっている。



### 後藤 成美（作曲）

Narumi Goto (composer)

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻作曲コース卒業、卒業時に桑原賞を受賞。同大学大学院音楽研究科博士前期課程作曲領域修了。作曲を山本裕之、小井洋明、Gian Paolo Luppi、Juha T. Koskinen、電子オルガンを稲垣智保、名和由美子の各氏に師事。公益財団法人青山音楽財団平成30年度奨学生。手工芸品のような質感を際立たせる音の追究やトレモロへの関心を軸に、音響の細密なテクスチャーを描き出す。さらには、パフォーマンスを用いた複合的なアプローチなど、多角的な表現を試みている。

### カンテレ(kantele)とは？

フィンランドに古くから伝わる撥絃楽器。絃の数により小型のものから大型のものまで様々な大きさの楽器が存在する。本公演では、一番大きなコンサートカンテレ（39絃）を使用。レバーを操作することでハープのように半音上げたり下げたりできる仕組みになっている。